
仮面ライダーW × AKB48

鯛焼き名人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダーW × AKB48

【Nコード】

N4896Y

【作者名】

鯛焼き名人

【あらすじ】

財団Xの加頭順を倒し一年後また二人で一人の仮面ライダーになった翔太郎とフィリップ
しかしドーパントの事件はまだまだ続く
それは二人が好きな国民的アイドルAKB48にも魔の手が襲っていた
突然行方不明になりAKBを裏切り他のグループに入るメンバー
その真相は彼女達の過去にあった…

仮面ライダーW × AKB48 登場人物

主な登場人物

左翔太郎

ハードボイルドに憧れる半人前探偵

鳴海探偵事務所で依頼を受け

フィリップと一緒にWドライバーとガイアメモリを使い仮面ライダーWとなりドーパントと戦う。

ミュージアムを倒し今は財団Xの調査をしている

女に甘いところが弱点

AKBのファンで篠田麻里子が推しらしい

フィリップ

同じく鳴海探偵事務所の探偵で仮面ライダー、翔太郎の相棒。星の本棚に入りあらゆる事が調べられる。いつもは事務所のガレージで調べごとをするが興味深いものを見つけると自ら外に出かける

家族がいなくなった後若菜姫の最後に聞いたラジオでオススメしていた「AKB48」のワードが出てそれを忘れないように毎日検索している。今ではAKBで知らないことはない

柏木由紀が好きらしい

鳴海亜樹子

鳴海探偵事務所の所長で鳴海荘吉の娘

大阪出身で行動力のある20歳

照井竜と結婚して一緒に暮らしている

今は大阪の母親が倒れ実家に帰っている

照井竜

風都警察署の刑事

アクセルドライバーとアクセルメモリを使い仮面ライダーアクセルに变身する。

井坂に家族を殺され復讐を果たし亜樹子と平凡な家庭生活を送っている

鳴海亜香里

鳴海荘吉の妹の娘

南風都高校3年生で先月引越してきた

運動神経が高く明るい性格で、最近事務所に来ない亜樹子の代わりで翔太郎と事件の調査をしている。翔太郎の言うことをちゃんと聞き亜樹子とは真逆

最新ガイアメモリ

フィリップがシュラウドが住んでいた家で見つけた4本のガイアメモリ。基本的にフォームチェンジでは使わず、マキシマムドライブの強化で使う。マキシマムスロット入れているがツインマキシマムみたいに過剰反応を起こさない

ドリルメモリ

螺旋の記憶

マキシマムを使うとドリル状の武器が追加されドーパントメモリを直接壊せる

スパイクメモリ

針山の記憶

針がついた鉄球が追加した攻撃で相手を殴り付ける

キューブメモリ

箱の記憶

このメモリはちょっと特殊で、マキシマムを使うとキューブ型のシ

ールドが出現してフィリップ側のメモリによって性質を変える
サイクロンではバリアー

ヒートでは炎のブロック攻撃

ルナではキューブが相手を包み閉じ込める

ホバーメモリ

浮遊の記憶

宙に浮かび加速度を上げ普通の倍の威力を出す
サイクロンジョーカーと相性がいい

仮面ライダーW×AKB

Pの過去／ビギンズナイト（前編）（前書き）

この物語はフィクションです。

実在の団体、人物が出てますが、全く関係ないです。

俺達は風都ホールへハードボイルダーに乗り急いでいた

フィリップ（以下フ）「翔太郎！！もっと急いでよ。間に合わないよ」

翔太郎（以下翔）「わーってるって！！」

今日は久しぶりの休みで俺達が大好きなAKBのコンサートを見に行った。しかしこの後あんなことに繋がるとは俺もそしてフィリップも考えてなかった…

翔太郎達ははなんとかホールに到着して先にいた亜香里と合流した

亜香里（以下亜）「遅いですよ翔太郎さん」

翔「わるいわるい、さあ行こうぜ…ってフィリップお前何だその格好！！」

フィリップはいつの間にかハチマキにハッピをきて両手にはペンライトを持っていかにも
って感じだった

フ「いや、検索をしたらこれが一番いい服装だと書いていたから」

翔「まったくお前はまあいいか早く行くぞ」

三人は会場に入った。中は大勢の人で埋め尽くされていた。なんと

か場所を確保して始まるのを待っていた

フ「早く始まらないかな、特に柏木さんの夜風の仕業をききたいなあ」

亜「ほんと楽しみだね」

三人がいろいろ話しているとステージに男が出てきた

男「え、今日のコンサートは前田敦子、大島、柏木、渡辺、小嶋、高橋、板野が都合によりお休みになりました本当にすいません」

観客席からざわめきや怒声が響いた、もちろん三人もだ。それもそのハズだ選抜総選挙で

トップ10入りしたメンバーが七人もいないのだから

翔「どーなってるんだ？」

亜「そんな〜どうして？」

フ「えっ！じゃあ夜風の仕業聞けないの」

それでもコンサートは始まり終盤かなり盛り上がったがフィリッパには少し笑顔が消えた

コンサートが終わり帰る途中

翔「あつ、照井に刃さん！」

刃「よっ！翔太郎」

翔「何でいるんすか？」

刃「今日のコンサートの警備だよ。お前こそなにやってる？」

翔「コンサート見に来たんすよ。でも柏木さんがいなくて元気なくて」

すると照井が話してきた

照井（以下照）「そのことで話すことがある。実は彼女達は行方不明らしい」

フィリップが顔色を変えた

フ「照井竜！！それは本当か」

照「ああ、もしかしたらお前達の力を借りるからその時は頼む」

翔「わかった。いつでも来い」

しかしフィリップは

フ「翔太郎！！今すぐに調査を始めよう！！」

フィリップは急いでバイクのほうに行った

翔「おい！待てよフィリップ！」

亜「二人とも待って」

それから三人は事務所に戻りフィリップだけは調査を進めて一夜を過ごした

仮面ライダーW×AKB

Pの過去／ビギンズナイト（後編）（前書き）

この物語はフィクションです。

実在する団体、人物が出てますが、全く関係ないです。

AKBメンバー行方不明の調査から3日後：

この日はあいにくの大雨だった。フィリップは悩んだ顔でガレージから出てきた

フ「駄目だ。検索しているがキーワードが少なすぎる」

翔「情報屋にも聞いてみたが手掛かり無しか…」

二人は寝ずに調査を続けて体はもうボロボロだった。そこに亜香里がコーヒーを持ってきた

亜「二人ともしっかりして下さいよ。それにしても何処に行ってしまったのでしょうかね」

翔「それがわかってたら苦労しねえよ」

そんな時翔太郎のスタックフォンに照井から電話がきた

翔「どうした？照井」

照「この前の件が行方不明になったメンバー全員見つかった」

翔「本当か！！照井」

照「ああ、もう大丈夫だ」

すると事務所のインターホンが鳴った

翔「わりい、また掛けなおす」

翔太郎は電話を切り、ドアを開ける前に二人に話の内容を伝えドアを開けた。

三人はとまどった。そこにはずぶ濡れの女の人が倒れ込んできた。

翔「おい！大丈夫か！？しっかりしろ！！」

翔太郎と亜香里は依頼人を事務所のベッドに寝かせたがフィリップは彼女の手を持っていた写真に手を取った

フ「これは……」

1時間後

依頼人が目をさました

翔太郎はコーヒーを渡した

翔「しっかし驚いたぜ、何であんたがここにいるんだ篠田麻里子さん」

今回の依頼人はAKB48の篠田麻里子だった

亜「サイン下さい」

亜香里の無茶ぶりにも応え翔太郎に話をした

篠田（以下篠）「実は…私のメンバーを助けて下さい」

翔「行方不明になったメンバーか？それならさっき警察から連絡が……」

篠「テレビ見てないんですか？」

疑問に思いながら翔太郎はコーヒーを飲みながらテレビをつけた。するとニュース番組がいてそこにはメンバーが写っていた

前田（以下前）「私達はAKBを脱退してハロプロで活動します」

大島（以下大）「これからの新しい私達を見てください」

翔太郎はコーヒーを吹いた
フィリップも驚いた

翔「はあ……どうゆうことだ！？」

亜「そんなの裏切り行為じゃない！？」

フ「いや、彼女らがそんなことするはずない」

「

篠「そう。敦子やみなみ達ははAKBに人生をかけてきた。だからそんなこと絶対にあり得ないの」

フ「何か心当たりは？」

篠「そう言えば、5年前メンバーの体のどこかしらに変なマークがついていたわ、それからたまに不審な行動をしていたわ」

フィリップは小声で翔太郎に話かけた

フ「翔太郎、これはドーパントの仕業かもしれない」

翔「ああ」

翔太郎は篠田に近づき

翔「わかった。その依頼引き受けたぜ」

篠「ありがとうございます。必ず皆を救って下さい」

そついうと篠田は安心してまた寝てしまった

翔「麻里子さんの看病は亜香里がして、フィリップは星の本棚で探索をしてくれ」

亜「了解しました」

しかしフィリップは

フ「僕も行かしてくれ、僕も本当のことを知りたいんだ」

翔「…わかった。行くぞ相棒」

そつすると翔太郎は帽子をとり事務所を出た雨はいつの間にか止んでいた

翔「まずは新しい事務所に話を聞くか」

フ「そうだね。あと照井竜にも連絡しておこう」

二人はハードボイルダーに乗り彼女達の事務所に向かった

仮面ライダーW×AKB

Pの過去／向かい風は吹いている

（前編）

（前

この物語はフィクションです。

実在の団体、人物の名前が出てますが、全く関係ないです。

翔太郎とフィリップは彼女達の新しい事務所に行った、

そこにはすでに多くの新聞記者やカメラマンがいた。その端に赤いバイクと照井がいた。三人は裏口から事務所に入った

三人は事務所を隠れながら彼女達の部屋を探した。そして事務所の一番暗い部屋のドアを開けると、そこには彼女達が椅子にただ座っていた。

翔「あんたらの仲間さんに助け出すよう依頼され来たさっさと脱出するぞ」

彼女達に返事はない。そして彼女達をよく見ると篠田の証言どうり体のどこかしらにくじやくが羽を広げているマークがついており冷たい目でどこかを見つめている。すると奥のほうから女の人の声が聞こえた

女「何を言っても無駄よ。その人達はあいつの操り人形なんだから」

柏木由紀だった。フィリップは彼女のもとに近づいた

フ「柏木さん！！大丈夫ですか？」

柏木（以下柏）「そのマークが私達を操っていたの、最初は自分たちの力で抑えていたけどだんだんと力が強くなって今では…」

フ「それは誰なんですか!？」

柏木が言いかけた時に、急に苦しみ始めた

フ「柏木さん！！柏木さん！！」

柏「奴はPの…ガ……イア」

そして柏木は苦しみながら首に着けていたペンダントを渡し他の人と同じように無表情になった

？「危ない、危ない もう少して私の正体がバレるところでした」

部屋の前には鳥のようなドーパントがいた。

照「やはりドーパントか」

翔「彼女達をどうするつもりだ！」

？「私のために働いてもらう。6年間待ったかいがあった」

フ「6年間？」

？「これからは私の物だ。さぁお前達踊れ！！」

ドーパントが指示すると彼女達がいきなり立ち上がり笑顔で踊り出した

翔「そんなこと絶対にさせるか！！」

三人はベルトをつけメモリを取り出した

CYCLONE

JOKER

ACCEL

翔&フ「変身!!」

照「変……身!!」

メモリをベルトに入れフィリップは倒れ仮面ライダーW と仮面ライダーアクセルに変身した。

W 「行くぜ!!」

Wはドーパント（以下D）に殴りかかり、アクセルはエンジンブレードできりかかったが簡単に避けられ窓を壊し空へと逃げた。

W 「逃がすか!!」

Wはハードダービュラーに乗りドーパントを追っかけた

A 「久しぶりに使うか」

アクセルはガイアメモリ強化アダプタをアクセルメモリに装着した

ACCEL UPGRADE BUSTAR

アクセルの体は黄色くなりアクセルブースターとなり空へ飛んだ

二人はドーパントに追いつき攻撃をした

W「おらぁ。くらいな」

ENGINE JET

AB「はぁ!!」

攻撃は見事に命中してビルの上階に落とした。ドーパントは叩き落とされひるんでいた

W「さぁお片付けだ」

W とアクセルはマキシマムを出そうとした瞬間後ドーパントの後ろから白い服を着た二人の男がいた。

W 「あいつらは財団X」

財団1「その人は私達の大切な存在」

財団2「死ぬのはお前らだ。仮面ライダー」

すると男達はガイアメモリを体に挿しドーパントになった

KILLER

DORAGON

W 「さすがヤバくなりそうだ」

W「エクストリームだ翔太郎」

エクストリームメモリはフィリップのからだを吸収してWのところに向かった

EXTREME!!!!!!

WはCJXとなりプリズムビッカーを出現した

CJX「まとめて相手にしてやるぜ」

キラードーパント（以下KD）とドラゴンドーパント（DD）と謎のドーパント（?D）と戦った。

AB「左!!!こいつらは俺に任せて奴を倒せ!!!」

CJX「すまねえ照井」

CJX「は?Dにきりかかった」

プリズム マキシマムドライブ

CJX「プリズムブレイク!!!」

しかし?Dは冷静なこえで

?D「いいのか?私を倒せば彼女達は一生あのままたぞろ」

CJX「何だと!!!」

W は攻撃を止めた隙に？D の反撃をくらいW はビルの最上階から落とされてしまった

C J X 「うわああああー！ー！ー！」

A B 「左！ー！フィリップ！ー！」

A B はジェット噴射でW に追い付こうとしたが

A B 「くそ！ー！間に合わない！ー！」

しかしWが地面に落ちる寸前に黒いオーロラがW を呑み込んだ

地面に降りたA B は驚いた

A B 「どこに行ったんだ…！」

翔太郎は目をさました

二人は変身解除され気がつけば公園に倒れていた。周りにはさっきのビルが見当たらない

翔「おい！フィリップ大丈夫か？」

フィリップも目をさました

フ「ああ、何とか」

翔「俺達どうなっているんだ？」

フ「多分、あの黒いオーロラのせいで別の次元に来てしまったらしい」

翔「どうする？」

フ「とりあえずこの世界のことを調べて見よう」

翔「そうだな」

二人は公園を出て少し歩くとビルばかりの都会にきた。そこにはサラリーマンやメイドの格好をした人や色んなジャンルの人がいた

フ「わかった！！ここは秋葉原という町だ。AKBの本拠地だ。ぞくぞくするねえ」

翔「そんなところに飛ばされたのかよ。まあ丁度いい彼女達の関係者達や他のメンバーにも詳しく調査しよう」

二人は少し歩いてAKB劇場があるドンキホーテの前にきたするとビラ配りしている女の子を見つけた。見た感じもらっている人が少ない気がする

「AKB 48です。よろしくお願いします」

AKB ? あんなに人気なメンバーがビラ配りなんて、二人はビラをもらいに行くと予想外な人物が配っていた。何とビラを配っていたのは依頼人の篠田麻里子だった

翔「麻里子さん！？何でいるんですか？」

篠田は焦っていた

篠「何で私を知ってるんですか？」

翔「いや、知ってるもなにも」

篠「でも嬉しいです。もしよかったら今日の劇場来て下さい。席が
らがらなのでその場で申し込めばOKです」

篠田はビラを渡した。翔太郎とフィリップは戸惑いながらビラをも
らってその場を後にした。

翔「どうなっているんだ」

するとビラを見ていたフィリップがいきなり話かけた

フ「翔太郎！！これを見たまえ」

秋元康プロデュース

AKB 48

今日2005年12月8日初公演スタート

翔「2005年って6年前…」

フ「ていうことは僕達は…」

翔「過去に来ちゃったー！！」

フ「過去に来てしまったー！！」

仮面ライダーW×AKB

Pの過去／向かい風は吹いている（後編）（前書き）

この物語はフィクションです

実在の人物や団体が登場しますが全く関係ありません

フィリップは星の本棚に入っていた

フ「検索を初めよう。知りたい項目は敵のメモリの名前キーワード」

翔「まずはP」

本が絞られる

翔「次に鳥、最後に6年前だ」

勢い本が減り最後に一冊だけ残った

フ「見つけた」

フィリップは本を取りだし読んだ

フ「ピーコックというメモリだ、だけどこのメモリには人を操る能力をもってはいないらしい」

翔「なんだって」

フ「今回の犯人は二つのメモリを使っている可能性がある」

翔「もしかしたら今日劇場に行けば犯人がわかるんじゃないか」

フ「その可能性は十分ある」

翔「よし、行くぞ!!」

二人は劇場に行った。お金を払い中に入った。篠田の言ってた通り人が少なくともとても静かだった。翔太郎は舞台裏にメモリガジェットを置き観客席に座った。みた感じ怪しい人物は見当たらない。しかしある人を見つけた

翔「おい、あの人昔有名アイドルグループのプロデューサーだった天王寺って人だ」

フ「それってどのくらい前だい？」

翔「この時代でも2、3年前ぐらいかな」

と話をしていたら公演が始まった

デビューしたてで緊張しているのがわかる。

しかし一生懸命やっているのが二人にも伝わってくる

公演が終わり

翔「何も起こらなかったな」

フ「いや、まだわからない張り込みでしょう」

二人は劇場から出て、外で待機していると

翔「麻里子さん！？まだやっていたんですか」

昼間同じようにビラ配りをしていた篠田を見つけた。

篠「あつ！昼間の人」

翔「まだビラ配りしているんですか」

篠「少しでも色んな人に知ってもらえるように頑張っているんだけど疲れちゃいました、ファンもいないしもう辞めようかな」

すると翔太郎が

翔「何言っているですか！！あなたは選抜総選挙で3位になりじゃんけん選抜で栄光の1位になる運でも実力でも最高の人なんですよ！！諦めちゃだめです」

篠田は聞いたこともないワードが出て混乱していた。

翔「それにファンがいらないなら俺がファン1号になる」

フィリップが小声で

フ「さすがハーフボイルド」

篠「えっ！本当ですか嬉しいです！あの〜お名前は…」

翔「俺は左翔太郎。探偵だ。こっちは相棒のフィリップ。困ったことがあつたらここに連絡して下さい」

翔太郎は名刺を渡す

篠「探偵さんですか、あと写真を撮ってもいいですか？」

篠田のデジカメで写真を撮っていると、スタックフォンに連絡がきた。デندنセンサーからだ

フ「ドーパントだ！彼女達が危ない」

翔「篠田さんあなたの仲間が危険です俺達を舞台裏に行かせ下さい」

篠「わかりました！！」

すぐさま劇場に戻り関係者しか入れない場所に行くと、倒れているメンバーがいた

篠「はるな！板野！！」

フィリップは彼女達にあの時と同じようなマークがついているのを見つけた

フ「翔太郎！！あの際のドーパントだ」

さらに奥に悲鳴が聞こえた、翔太郎は急いで行くとあの際と違うドーパントと前田敦子がいた。翔太郎はメモリガジェットで攻撃し、前田をドーパントから離れた。

翔「おい、あの際のドーパントじゃねえぞ」

そこには金棒を持った鬼みtainなドーパントがいた
フ「本当だ。どうなっているんだ」

翔「フィリップ！！とにかく変身だ」

篠田が着くと翔太郎とフィリップの腰にダブルドライバーが装着され
ガイアメモリを取り出した

CYCLONE

JOKER

翔&フ「変身!!」

フィリップがガイアメモリを挿し倒れ翔太郎に転送され仮面ライダー
IW 変身した

CYCLONE JOKER

篠「か、仮面ライダー!?!」

篠田は驚きながらも前田を連れて非難した

W「さあ行くぜ」

ドーパント(D)は金棒を振り回し攻撃してきた

W「おめえみたいのにはこれだ」

LUNA METAL

WはLMになりメタルシャフトで反撃した

W「翔太郎!!早めに終わらせよう」

そうするとW はスパイクメモリを腰のマキシマムスロットに挿すとメタルシャフトの両側に鉄球が付き自由自在に操って相手を追いつめていった

W「これで最後だ」

METAL MAXIMUM DRIVE

メタルスパイクイリュージョン

メタルシャフトの先端から無数の鉄球が放たれドーパントに命中して、人間態に戻った体内からはガイアメモリが出てきた

PRISON 監獄の記憶のメモリだった

W「おい！お前だな彼女達を操ろうとしている奴は！！」

男「し、知らねえよ！！俺は心は奪えるけど操ることはできない」

W「翔太郎、このメモリも人を操る能力は持っていない」

？「その通り！！仮面ライダー」

PEACOCK

暗闇からピーコックドーパントが現れた。

PD「そいつは私の計画に大切な実験台だ」

PD は砕けたメモリを拾い上げ男の前に出すと男はメモリに吸い

込まれると、ガイアメモリは元に戻りPD の体内に入り後ろの二本の羽が三本になった

W「貴様ー！」

PD「おっと、まだお前達と闘う訳にはいかないひとまず退散だ」

PD は持っていたパラレルメモリを使い黒いオーロラが出現し、中へと消えた。しかしWとフィリップの吸収したエクストリームメモリが何とかオーロラに入った

変身解除された翔太郎とフィリップはまた公園に落とされた

翔「痛いなー」

しかしフィリップはエクストリームに入ってたため無傷だった

フ「翔太郎、大丈夫かい？」

翔「ああ、ここは戻ったのか？」

フ「いや、まだここはさっきの時代から二年後の2007年4月8日だ」

翔「その日って…」

フ「チームBの初公演だ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4896y/>

仮面ライダーW × AKB48

2011年11月23日20時46分発行